

令和4年9月20日

令和4年度全国学力・学習状況調査結果（速報）

奄美市教育委員会

1 実施の状況

【調査日】令和4年4月19日（火）

【教科に関する調査】

出題内容は、下記①と②を一体的に問うもの

① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のために構想を立て実践し評価・改善する力等

【質問紙調査】

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

2 教科に関する調査の結果

(1) 市の平均正答率〔令和4年度〕（ ）内は、全国との差

	国語	算数・数学	理科
小学校6年生	64 (−1.6)	61 (−2.2)	66 (2.7)
中学校3年生	67 (−2.0)	43 (−8.4)	47 (−2.3)

理科は、平成30年度の悉皆調査以来の実施

《参考》 過去3年間の学力調査の結果

〔令和3年度〕

	国語	算数・数学
小学校6年生	66 (1.3)	69 (−1.2)
中学校3年生	65 (0.4)	55 (−2.2)

※ 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症による休校等で中止

〔令和元年度〕

	国語	算数・数学	英語
小学校6年生	67 (−2.2)	66 (−0.6)	
中学校3年生	66 (−6.8)	70 (−10.8)	48 (−8.0)

〔平成30年度〕

	国語	算数・数学	理科
小学校6年生	69 (−1.7)	65 (1.5)	59 (−1.3)
中学校3年生	73 (−3.1)	59 (−7.1)	63 (−3.1)

(2) 結果の概要

- ア 小学校理科で全国平均正答率を上回ることができたが、他の教科は、全国平均を下回っている。特に、中3数学では、全国平均との差が大きく、課題が顕著である。
- イ 小6及び中3国語ともに、「書くこと」の内容に関する正答率が高い。
- ウ 小6の算数では、「数と計算」領域の問題が全国並みの正答率である。
- エ 中3理科では、記述式の問題の正答率が全国を上回り、自分の考えを表現することができている。
- オ 小6及び中3国語の漢字や言葉に関わる問題、中3数学の素因数分解や連立方程式の計算など、知識・技能の観点に関わる問題の正答率が低い。

3 児童・生徒質問紙の概要

(1) 小学校

- ア 全国平均より肯定的な回答が特に高かった質問項目
項目「将来の夢や目標を持っていますか」
- イ 全国平均より肯定的な回答が特に低かった質問項目
項目「自分には、よいところがあると思いますか」
項目「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を使用しましたか」
- ウ その他の主な質問事項の分析
家で学校からの課題で分からないことがあったとき、そのままにしている割合が高い。また、月曜日から金曜日の勉強時間が少ない。

(2) 中学校

- ア 全国平均より肯定的な回答が特に高かった質問項目
項目「友達と協力するのは楽しいと思いますか」
項目「今住んでいる地域の行事に参加していますか」
項目「理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか」
- イ 全国平均より肯定的な回答が特に低かった質問項目
項目「自分には、よいところがあると思いますか」
- ウ その他の質問項目の分析
家で学校からの課題で分からないことがあったとき、誰かに聞く割合が低く、そのままにしている状況がうかがえる。
また、普段（月曜日から金曜日）に、学校の授業時間以外にどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾、家庭教師、インターネット活用の学習も含む）の回答で、2時間以上の勉強時間の割合が少ない。

4 考察等

本市の学力は、各校の取組の成果が出てきている面もあるが、課題も多い。本市では、授業改善として、児童・生徒が主体となる授業を展開し、特に、授業の終末での「確かめ・見届け」の実施と充実に取り組むことを各校に指導してきている。今後も、児童・生徒の定着度を的確に見取り、その見取りをその後の個別指導や家庭学習に生かすことで、確実な知識・技能の習得を図り、「分からないまま、できないまま」という状況が生まれないようにすることに取り組んでいく。

このことは、学力向上のみでなく、本市の課題である、児童・生徒の「自己肯定感」を高めることにもつながるものと考ええる。